

平成28年度 離島漁業再生支援事業実施状況

東京都が実施している離島漁業再生支援事業について、平成28年度の実施状況を公表します。

実施目的

東京都の離島は『漁業』が基幹産業です。しかし、内地漁業に比較し輸送コストなど販売・生産面で不利があり、また漁業者の減少等の問題も抱えています。このため、地域の漁業再生をめざし、各島の漁業者等で構成された漁業集落が離島再生事業として、①漁場の生産力の向上、②漁業の再生に関する実践的な取組、③新規就業者に関する取組等を行っています。

実施概要

事業主体	集落協定数	協定参加世帯数	事業費
大島町	2	111	15,096千円
新島村	1	36	4,896千円
神津島村	1	98	13,328千円
三宅村	1	(9)	1,400千円
御蔵島村	1	24	3,264千円
小笠原村	2	64	8,704千円
合計	8	※333	45,288千円

※①漁場の生産力の向上と②漁業の再生に関する実践的な取組を実施している町村の世帯数

取組概要

		大島町		新島村	神津島村	御蔵島村	三宅村	小笠原村	
		大島	元町	式根島	神津島	御蔵島	三宅島	父島	母島
① 漁場の生産力の向上に関する取組	種苗放流								
	漁場の管理・改善	●	●		●	●			
	産卵場・育成場の整備				●				
	漁場監視		●	●		●		●	●
	その他								
② 漁業の再生に関する実践的な取組	新たな漁具・漁法の導入							●	
	新規漁業への着業				●				
	低・未利用資源の活用	●		●	●	●			
	品質の均一化に向けた取組								
	高付加価値化	●				●			
	流通体制改善					●		●	
	簡易加工					●			
	伝統漁法の取組				●				
	販路拡大	●		●	●	●			●
	その他	●	●						
③ 新規就業者に関する取組 漁船の貸与							●		

大島町（おおしままち）

<大島漁業集落>

磯刈りによる藻場の管理

磯焼け防止及び資源確保のため、集落内4地区で磯刈りを実施。内2か所では更に石灰磯刈りも行い、海藻や貝が付着しやすくなりました。

低・未利用資源の活用

定置網で漁獲されるサバ等を加工・製品化を行い、島内外での消費、販路拡大を図りました。特に卸会社への訪問をきっかけに、島外の学校給食での取扱が始まり、今後の販路拡大に良い影響を与えました。また、都内飲食店で大島産食材のみの特別メニューが採用され、当集落の加工品が使われました。島内では加工品の販売と、その加工品を材料とした定食等を提供する食堂の運営により、徐々に島内での周知が進みました。



【磯刈り作業】



【石灰藻刈り作業】



【低・未利用資源の活用】

<元町漁業集落>

漁場の監視

夏季期間中の禁漁区域での密漁防止のため、禁漁区の線引きを示すブイを6箇所に設置し、漁場監視を行いました。これにより、密漁の阻止だけでなく、遊泳者を含めた住民等の禁漁区に対する認識を高めました。

藻場の管理改善

海底の泥の中に魚礁が埋まってしまい、海藻等が付着しにくい状況のため、埋まった魚礁をひっくり返して（盤起こし）、海藻や貝を付着しやすくなりました。

魚礁の選定（人工魚礁の設置）

新たな漁場となりそうな場所に、試験的に人工魚礁を設置し、水産資源の減少を防ぎました。



【禁漁区ブイ打ち】



【盤起こし作業】



【魚礁の設置】

新島村（にいしまむら）

< 式根島集落 >

漁場監視

観光シーズンに漁場を監視するにより、密漁行為の防止が図られました。

低・未利用資源の活用と販路拡大

定置網や地元漁業者の水揚げの中の低利用・未利用の魚を買い取り、加工販売することで、漁業者の操業意欲向上と収益向上に繋がりました。また、イベントへの積極的な参加等、PRと販路拡大に努めました。これらの結果、島内売店や民宿で商品の取扱が広まり、島外からの注文も増加しました。



【漁場監視：中の浦海岸】



【低・未利用資源の活用】



【島じまん2016でのPR】

神津島村（こうづしまむら）

< 神津島漁業集落 >

漁場の生産力の向上と漁場の資源管理・改善

アオリイカの産卵・育成のため、人工漁礁及び自然物(伐採木)を各地の海岸に計45基設置しました。害的生物(パラムツ・エイ等)の駆除及びキンメダイのタグ打ち(標識放流)を行いました。

新規漁業への取組

新規漁法のヒラメ網漁と、伝統漁法だったウツボ漁に取り組み、ヒラメ・ウツボ・鯛・イサキ等の水揚げをあげることができました。

未利用資源の活用

未利用魚の付加価値向上、雇用の確保を目指して、加工・販売強化に取り組みました。



【キンメダイタグ打ち】



【ウツボ漁】



【未利用魚の加工】

御蔵島村（みくらじまむら）

< 御蔵島村漁業集落 >

漁場監視・貝類の資源調査

イセエビ漁やキンメダイ漁の禁漁期間等の制限が遵守されていることを確認するため、漁場監視を実施し、資源管理に努めました。

バテイラ等のクボガイ科の貝類について、前年度に引き続き、分布場所・生息数・成育状況の調査を行いました。

加工品の開発・販売促進グッズの開発

御蔵島のタカベを利用して、骨まで食べられる干物として販売を行いました。

水産物販売の販売促進グッズとして、オリジナルデザインの保冷バック、御蔵島の魚を利用した料理レシピ本を製作しました。



【漁場監視】



【保冷バック】



【料理レシピ本】

三宅村（みやけむら）

< 三宅島漁業集落 >

新規就業者への取組

三宅村で実施している長期漁業研修から独立する新規就業者1名に対し、漁船のリース事業を行いました。



【リース漁船（FRP製9.1トン）】

小笠原村（おがさわらむら）

< 父島漁業集落 >

漁場監視

漁場の保全、操業秩序の維持及び密漁防止のため、漁場監視を実施しました。

新たな漁具・漁法の導入

音波集魚装置の試験操業を、縦はえ縄漁、はえ縄漁、タル流し釣り、底魚一本釣り漁で実施し、今後も検証を続けることとしました。

流通体制の改善

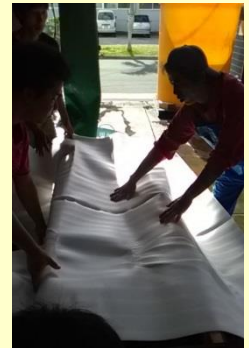
✂処理（延髄締めと鰓の脱血）による鮮度変化を測定し、有効な鮮度保持方法について検証しました。また、コスト削減と保温性の向上を目的とし、保温シートを導入しました。シートの使用状況は良好で保温効果も従来より高く、出荷先市場でも高い評価を得ました。



【漁場監視】



【神経✂】



【保温シートの導入】

< 母島漁業集落 >

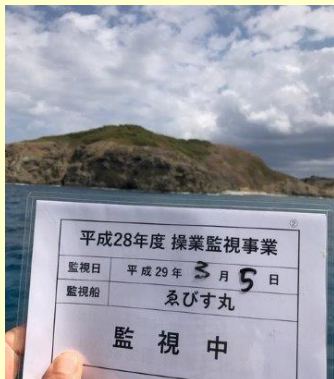
漁場監視

漁場の保全、操業秩序の維持及び密漁防止のため、延べ36回の漁場監視を実施しました。

販路拡大・市場調査

内地の3市場及び沖縄県の卸会社等を訪問し、販路拡大のための意見交換を行いました。

いずれの訪問先でも出荷物の鮮度は良いという評価を得ており、大きな問題が無いこと、氷温シート、OPPフィルム（パーチ）等の鮮度保持向上策が効果を上げていることが分かりました。



【漁場監視】



【販路拡大・市場調査】

